

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASC

第52号

- 1◎巻頭言
- 2◎第29回全国大会の案内
- 3◎研修委員会//認定委員会//学会誌作成委員会
- 4◎広報委員会//先輩に聞く
- 5◎【奈良県支部】一支部活動報告一
- 6◎第27回中央研修会報告
- 7◎研修会参加者の声//震災被災者（地）支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//第52号編集後記

巻頭言

私と教育相談

私の書斎らしき部屋の壁には、名古屋市内のある「荒れた中学校」で担任をした学級の拡大写真が飾ってある。三脚を立てて、担任を含め2年5組全員で撮影したお宝である。すでに30年、私を見続けている。最前列の真ん中には、生徒たちの手作りの人形が椅子に座っている。机の前面には「待っているよ」のメッセージが貼られている。彼女は私が初めて担任をした登校拒否（当時）生徒。中学生になって全欠席だったので、彼女をクラスに迎え入れることが学級活動の目標の一つであった。

年度もかなり押し迫った頃、突然、彼女から「明日、学校に行く」という電話があった。有頂天になった私は、緊急連絡網で全員に明日の歓迎会の予定を伝えた。翌日、彼女は楽しそうにクラスメートと交流したように見えたが、登校はその日だけに終わった。私は教育相談とそのように出会った。

中学校から高校に職場が替わって3年目、愛知県総合教育センターの長期研修生となり、本格的に教育相談の研修を受ける機会を得た。長岡利貞先生や加藤純一先生との知遇も得ることができた。本学会設立の熱い気運も間近に見聞した。当時、私は一学級担任に過ぎず、授業後はソフトボール部の顧問と



愛知県支部理事 細溝 典彦

して、お転婆娘たちにひたすらノックの雨を降らす熱血の日々を送っていた。

この長期研修から私の教育観や教師観が変わったように思う。熱血信奉が少々治まり、生徒との距離間隔が意識できるようになった。保護者対応も冷静にかつ柔軟にできるようになった。直球だけでなく変化球にもバットが出るようになったと思う。そして、大袈裟に言えば、教員人生も変わった。教育センター、特別支援学校、定時制・通信制高校での貴重で幸せな職場経験も、教育相談との出会いがあったからこそである。

本学会誕生から25年、ずっと関わらせていただいているが、私の願いは「学校」や「教師」にとことんこだわる学会であってほしいということである。

臨床心理学等の関連学問の知見を大いに学びつつも、「学校」や「教師」がベースキャンプであることを決して忘れてはならない。日焼けをした多くの若手教師が本学会の扉をノックしてほしいと強く願う昨今である。

前述の写真の隣には、学校カウンセラーの認定証額を架けている。



第29回 全国大会の案内

千葉大会実行委員長 田邊 昭雄

～温かい眼差しの輪の中で～

日本学校教育相談学会第29回総会・研究大会が、今年、下記のとおり千葉市で開催されます。会員の皆様、ぜひ8月に千葉へお越しください。お待ちしております。

テーマ：『チームでひろげ つながる学校教育相談
～温かい眼差しの輪の中で～』

期 日：2017年8月4日（金）～6日（日）

会 場：神田外語大学（ワークショップ）

ホテルポートプラザちば（研究大会）

テーマの副題には、東京工業大学の上田紀行教授（文化人類学）が使われた「温かい眼差しの輪」という言葉を入れさせていただきました。子どもたちをそのような輪の中で見守りたいものです。

内容的には、今回特に臺灣師範大学教育心理與輔導學系主任 田秀蘭 教授をお招きし、総会後に海外招待講演を企画しました。

田教授には『臺灣におけるキャンパス3ランク予防体制と補導教師の役割』（仮題）についてお話しいただく予定です。台湾の補導教師の活動は、日本の学校における教育相談系の活動にも大きな示唆を与えるものになると思います。田教授は台湾における学校心理学、輔導教育をリードする第一線の研究者です。ぜひご期待ください。

また、同じ5日に公開記念シンポジウムということで、移行支援の問題を扱います。講師には、千葉大学教育学部教員養成開発センター長の保坂亨教授と和歌山県精神保健福祉センターの小野善郎所長のお二人を話題提供ということでお願いしました。お二人とも学校教育を大人への移行支援という視点から捉え直しています。当日は保坂先生が発達心理学の立場から、小野先生が発達精神病理学の立場からお話しいただけるとと思います。こちらもどうぞご期待ください。

なお、5日の昼食時には、ランチョンセミナーを2会場で実施できるよう現在調整中です。こちらは、当日のお楽しみ（もしかするとやれなくなる場合があります）ということでご期待ください。

そして、6日には、私たちの大先輩で学校教育相談の先駆者である日本教育大学院大学の野精一教授の教育講演を企画しました。野先生からは『私の学校教育相談 School Counseling Services by Teachers in Japan 研究について—今後の展望を踏まえて』という演題を頂いています。私たちの今いる位置を確認できるお話になると思います。

また、今年の学会賞受賞者講演は立命館大学の春日井敏之教授です。演題は「教育相談を軸にした包括的な指導・支援—いじめ・不登校・子ども理解・チーム支援—」です。楽しみです。

4日のワークショップも研修委員会のほうで千葉色を盛り込みながら、多彩なA～Gの7コースを用意していただきました。

特に千葉色について触れておくと、Bコースの佐藤真二先生は千葉県における特別支援教育を長年リードしてきた先生です。また、Fコースの清水栄司先生は、千葉大学医学部の認知行動療法研究のリーダーです。認知行動療法の学校教育への応用を進めているところです。その他のコースも全国的に著名な講師を揃えていただきました。どうぞ4日のワークショップからぜひお越しください。

さらに大会終了後も延泊していただき、ディズニールンドやディズニースーで、ご家族とともに過ごしていただいてもよいかと思えます。アクアライン「海ほたる」では、夏の心地よい風を感じられることでしょう。その他にも房総の風光明媚な観光名所が皆様をお待ちしています。

「よく学びよく遊ぶ」の実践的研究をとおして、この言葉を検証していただければ幸いです。千葉支部会員一同、皆様のご来県をお待ちしております。

研修委員会

第27回中央研修会は、1月7日(土)8日(日)の二日間、盛会のもと無事に終了いたしました。

研修委員会主管の次の研修は、8月4日(金)から千葉で行われる第29回総会・研究大会でのワークショップとラウンドテーブルとなります。

千葉大会ワークショップは4日(金)に、神田外国語大学を会場として、別紙案内にある7コースの講座が開講いたします。「アクティブラーニング」や「認知行動療法」など授業実践にすぐにも活用できる理論や技法、また、不登校を始め様々な困難を抱えている児童・生徒に対する支援に役立つ実践的な方法などを学ぶことができる絶好の機会です。継続的に開講している「論文の書き方」講座もあります。どうぞ奮ってご参加ください。

6日(日)には研究大会の企画の一つとし、今年で6回目となるラウンドテーブルも開きます。ラウンドテーブルとは、文字通り、円卓を囲んで自由に議論を交わすようなイメージで、参加者一人ひとりがテーマについて、自らの考えや経験を自由に語り合う場を目指しています。今回のテーマは「保護者対応(仮)」です。「(対応に)困る保護者」は「困っている保護者」。トラブル対応というよりは、保護者と教員とが連携して子どもの成長を支えていく、そのための智恵や方法を学会員同士で共有しあう機会になればと思っています。

皆様の参加を心よりお待ちしております。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)

認定委員会

平成28年12月11日(日)に第3回「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」を神戸市産業振興センター(神戸)で開催いたしました。午前には日本学校教育相談学会の会長で広島大学大学院教育学研究科附属教育実践センター教授の栗原慎二先生に「学校教育相談のこれから～予防的・開発的な教育プログラムの実践」という演題で講演していただき、午後は校種別で分科会を開催して、参加者が実際に学校で実践している成果や課題を話し合いました。

参加者は小学校11名、中学校15名、高校8名、計34名でした。参加して下さった先生方からは、学校教育相談の現状と今後の展望について理解が深

まり、これからの自分の実践に生かせる内容だった等の感想をいただきました。お寄せいただいた感想やご意見を次回の研究会に生かしていきます。

*ガイダンスカウンセラーの資格について

ガイダンスカウンセラーは日本スクールカウンセリング推進協議会の認定している資格です。日本学校教育相談学会の「学校カウンセラー」の資格を基礎資格として取得することができます。現在、日本学校教育相談学会には約400名のガイダンスカウンセラーの資格保有者がいます。スクールカウンセリング推進協議会では、この資格がこれからの学校に必要な資格となるよう文科省に積極的に働きかけています。会員の皆様、学校カウンセラーの資格を取得してガイダンスカウンセラーになりましょう。現在資格をお持ちの皆様、本年度より年会費が必要となりましたが、ぜひ年会費を振り込んで資格を継続し下さい。

(文責：認定委員長 青木 美穂子)



学会誌作成委員会

本年度の投稿論文は18本でした。現在、各論文の査読が終わり、掲載予定の論文の修正をしていただき、その後編集・校正を経て6月の発刊に向けて準備しているところです。

さて、学会誌作成委員会としましては、多くの会員の方にご投稿いただき、できるだけ学会誌に掲載できるようにと考えております。従来通り、論文作成のワークショップを夏の大会と1月の全国研修会で継続してまいりますので、是非ご参加いただきたいと思えます。また、今回、投稿論文の種類を見直し、①研究論文、②実践論文、③実践報告、④資料、としました。①②④につきましては実質的には従来と同様ですが、新たに③実践報告を設けました。これは、学校現場の先生方が実践されました事例や活動をまとめていただき、気軽にご投稿いただけるように配慮した結果です。実践報告は、文献研究や考察が少なくとも結構です。それよりも実践の報告を重視いたします。是非多くの先生にご投稿いただけるよう願っております。

支部理事長様へお願い

学会誌の投稿数を倍増したいと思っておりますので、各支部で投稿者1名の推薦を是非お願いします（掲載保証があるわけではありません）。上記③の実践報告を中心に考えておりますが、他でも結構です。推薦したい会員を、委員長（長坂）までメール（投稿規定に掲載）で7月末までにお知らせください。なお、投稿方法及び審査は一般会員と同様です。

（文責：学会誌作成委員長 長坂 正文）

広報委員会

ガイダンスカウンセラーに関連する情報、文部科学省の動向などを随時お知らせしたいと考えていました。「一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会」の理事であり、文部科学省の「学校における教育相談等に関する調査研究協力者会議」の委員である加勇田修士先生のご協力で、情報提供をいただくことになりました。以下がその内容です。

今後も、広報委員会の欄でお知らせする予定です。

（文責：広報委員長 梅川 康治）

ガイダンスカウンセラー関連情報

平成28年12月5日に、「第8回教育相談等に関する調査研究協力者会議」があり、平成27年12月4日から始まった「新しいスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの在り方」についての1年間の検討が終わりました。個別対応、事後対応に偏っていたことで不登校、いじめが減少しないことが確認され、予防・開発や集団対応を得意とするガイダンスカウンセラーの資格が明文化されて今後の活躍が期待されることになりました。学校カウンセラーを増やし、さらに優秀なガイダンスカウンセラーを育てることが喫緊の課題になりました。会議の中で発言したことが、「張りぼて」にならないようにと皆様のご助力をよろしくお願い致します。

教育相談等に関する調査研究協力者会議の「まとめ案」の最新版が公表されました。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/120/shiryo/1379214.htm

（文責：加勇田 修士）

先輩に聞く

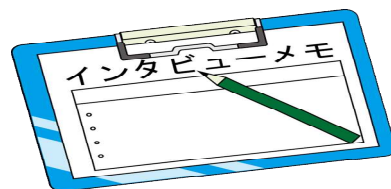
「私と教育相談」

名誉会長 日野宜千

日野先生は、昭和52年に栃木県教育相談研究所の相談部長に就任し、栃木県の教育相談を下司昌一先生と共にリードしてきました。

平成元年に日本学校教育相談学会が設立され、先生も創立当初より活動に参加されました。その後、認定委員長、副会長を経て会長に就任し、現在は名誉会長をしていらっしやいます。

日野先生より伺ったことをまとめてみました。



1 学校教育相談の役割

教育相談が「登校拒否や非行を治すもの」「一人ひとりの話を聴くもの」と考えられていた頃より、「学校教育相談とはこういうものであるという理論を作る」「学校教育相談は学校の中で開発的なカウンセリングを中心に行い、必要に応じて予防や問題解決も行う」と考えて、学校教育相談ハンドブックの出版に努力しました。また、「認定学校カウンセラーが学校の中で専門的な教育相談ができるようになって欲しい」と考えて、教育相談やカウンセリングの普及に力を入れてきました。しかし、日本の学校制度や教員の専門性等で理想のようにはできませんでした。

2 教育相談の推移

学会設立当時と比べると現在の学校教育相談は勢いがないように感じます。その理由の一つが「教育相談は、特別に研修を受けなくてもできるもの」と教師たちは考えているように思えます。教職課程の授業でカウンセリングを既に理解されてしまったからだと考えています。しかし、教育相談の専門性はより深い研修とそれに基づく実践の中から生まれるのです。

そうした専門性を高めるには、「理論を学ぶ」「実践で高めていく」の二つの方法があります。

「目の前の問題を解決していくこと」と同時に「なぜ問題が起こったのか？」という背景についての洞察とそれによる実践活動が求められます。

3 教師とカウンセリング

本学会は、教員の集団なので、一生、学校カウンセラーだけに専念したいと考える人は少なく、学校側も学校カウンセラーより、優秀な教師を必要とします。これは当然のことですが、これから教育相談を学ぶ人たちは何を目標として勉強していくかが難しいと思います。また、熱心に教育相談を勉強した人たちはカウンセリングの研究を「大学」に求め、その方向へ進んで行くようです。

これは会員が学校で教育相談を行うことを本学会がサポートできていないからだと思っています。

学会のリーダーだった私も文部科学省等への外側に働き掛けることも不十分だったし、学校を内から変えるような事も行えば良かったのかも知れないと反省しています。

4 これからの方向

教員は教育心理学を学びますが、ほとんどの教師は自分のパーソナリティで子どもと向き合い、勝負しています。特に学級担任の仕事は大変だと思います。色々な問題があっても、それらについての勉強をすること、腰を据えた実践を行う暇も無いのが現状です。

そこで、学校にも専門家がいて欲しいと考えます。アメリカでは学校に数人のスクールカウンセラーが配備され、生徒の相談や進路指導を行ってくれます。教師は教科指導だけを行います。このシステムを日本の学校に取り入れるには制度上難しいようですが、文部科学省も専門家や保護者を学校に入れてチームとして運営する「チーム学校」を提言しました。良い方向に行ってくれることを願います。

5 カウンセリングで人間的成長を

最近では教師が生徒との関係を作るのに苦労する事が多くなりました。問題となるのは「人間教育の力量を上げること」だと思います。

世間は、教師を「教育の専門家」として認識しています。カウンセリングを学ぶ人は、それと同時に「人間理解のプロ」「関わりのプロ」になってもらいたいと思います。経験を積んで成長することも大切ですが、WISCのスコアを読み、書かれている事が分かる位の専門性も持って欲しいと思います。「人間は心の持ち方によってどんな様にも変わっていく」ことを知る勉強もすると良いと思います。

それとともに教師の目標は「優れた教え子を出すこと」です。教師とカウンセラーでは生徒との関係性が違い、教師が目指すものは生徒・保護者から「慕

われる」、「信頼される」存在になる必要があります。そうなるためには、生徒と向き合う時に対等の立場ではなく一段上の立場でなければなりません。教育者は児童生徒に慕われるとともに、高い教養を持った一段上の存在として、関係性が作れたらと思います。

最後に、日本学校相談学会の方向は「心の教育」ができる優れた教師を学校の中に養成していくことも必要です。

(文責: 広報委員 藤浪 直紀)

【奈良県支部】一支部活動報告一

奈良県支部では、年度当初に総会並びに研究大会を開催した後、年間7回の研修会を実施しています。過去2年間は第1回と第2回の研修会を公開講座とし、教育相談の学びの裾野を広げるべく、県内の会員外の教職員に参加を呼びかけながら会員の拡大に向けて努力をしてまいりました。

研修内容の構成を教育相談に関する理論研究、事例研究、演習形式と、偏り無く設定することにより幅広い研修を目指しています。また、年に1度は必ず外部講師を招聘しての研修会を開催して、見識を広めるように努めています。以下、今年度の研修内容を紹介致します。



1. 平成28年度総会並びに研究大会
日時：平成28年5月7日(土)
場所：桜井市まほろばセンター
研究大会記念講演
演題 「私と教育相談の出会い」
講師 前支部理事長 橋戸敏弘 先生
2. 平成28年度支部研修会
(1) 第1回研修会(公開講座)
日時：平成28年6月25日(土)
場所：桜井まほろばセンター
内容：学校教育相談入門

講師：橋本宗和（学校カウンセラー）
西松 寛（学校カウンセラー）
粉川かよ子（学校カウンセラー）

(2) 第2回研修会（公開講座）

日時：平成28年7月16日（土）
場所：奈良教育大学
内容：学校教育相談の基礎
講師：山本健治（臨床心理士）

(3) 第3回研修会

日時：平成28年8月20日（土）
場所：桜井まほろばセンター
内容：事例研究
講師：島田裕司（学校カウンセラー）

(4) 第4回研修会

近畿・石川ブロック研究大会 京都大会
日時：平成28年10月23日（日）
場所：立命館大学朱雀キャンパス
分科会発表者：北野真佐枝・小倉真理
助言者・司会者：山本健治・橋本宗和

(5) 第5回研修会

日時：平成28年11月5日（土）
場所：奈良教育大学
内容：学校における修復的アプローチの理論と実践
講師：池島徳大（臨床心理士）

(6) 第6回研修会

日時：平成28年12月10日（土）
場所：桜井まほろばセンター
内容：発達に特性をもった子どもへの支援
講師：児童家庭支援センターあすか
主任ソーシャルワーカー 絹谷雅典

(7) 第7回研修会

日時：平成29年1月21日（土）
場所：桜井まほろばセンター
内容：箱庭療法入門
講師：橋戸敏弘（臨床心理士）

3. 支部会報の発行

ザ・学校教育相談（年1回発行）

4. 平成28年度支部役員

理事長 山本健治
理事兼事務局長 橋本宗和
理事 池島徳大、植田ゆかり、浦前知佐子
江南佳代子、筱 更治、島田裕司
西井善孝、西松 寛
運営委員15名（氏名省略）

5. 近畿・石川ブロック研究大会奈良大会に向けて
平成29年10月22日（日）に、奈良市内の
ホテル リガール春日野にて平成29年度近畿・石
川ブロック研究大会奈良大会を開催させていただ
く予定です。多くの会員の皆様のご参加を、支部
会員一同心よりお待ちしております。

（文責：奈良県支部理事長 山本 健治）



第27回 中央研修会 報告

1月7日、8日の二日間にわたり、第27回中央
研修会が、東京のオリンピック記念青少年総合セン
ターを会場として、開催されました。年始にもかか
わらず160名を越える参加者が熱心に研修に取り
組みました。7日は3つのプレ講座とシンポジウム、
8日は7コースに別れたコース別研修という内容で
した。

今回のプレ講座は「感覚統合療法入門」「動機付け
面接入門」「ラフターヨガ入門」の3つでした。どの
講座も盛りだくさんの充実した内容で、研修会アン
ケートでの受講者の満足度も高く、研修委員会では、
発展的な内容の続編を、時間の短いプレ講座ではな
くコース別研修で行うことも検討しています。

続いて行われたシンポジウムのテーマは「合理的
配慮の実現～学校教育相談の真価が問われる」でし
た。今年度より障害者差別解消法が施行され、学校
現場でも今まで以上に合理的配慮の提供が求められ
ています。こうした現状を踏まえて行われた今回の
シンポジウムは、参加者の意識も高く、メモなどを
取りながら真剣に聴いているフロアの様子が印象的
でした。

内容は「合理的配慮に見られる理念と教育相談」
という基調講演を受けて、小学校、高等学校におけ
る実践報告、そして障害を持つ子の親の立場から学
校現場への提言もあり、特別支援教育における合理
的な配慮と、学校教育相談との理念の共通性や実践
における関わりなど多くの示唆が得られたシンポジ
ウムでした。

コース別研修も「WISC-IV」「傾聴」「アクティブラーニング」「短期療法」「アドラー心理学」「フレンズ」「論文の書き方」と多岐にわたるテーマが用意され、全国大会にふさわしい充実した研修内容でした。午前と午後の5時間に渡る長時間の研修でしたが、それでも時間が足りなかった、もっと講師の先生の話をお聴きしたかったという声もあるほど、参加者の皆さんは熱心に学ばれていました。

7日の夜には「教育相談カフェ（交流懇親会）」も催され、50名近い参加者が全国の仲間と親睦を深め、情報交換を行うよい機会となりました。

（文責：研修委員長 渡辺 正雄）

中央研修会 参加者の声

研修終了後に実施したアンケートより抜粋しました。一部表記を改めたところがあります。

<プレ講座>

- ・実際に困っている子の苦手さを体験することで、その子の立場・気持ちを少しでも感じることができました。
- ・そっと差し出すように言ってみる、語尾、間の取り方等表現の仕方をもっと学ばなければと思いました。とても参考になりました。
- ・講師の先生の人柄に、あっという間に時間が過ぎました。「笑い」の効果を実感しました。

<シンポジウム>

- ・貴重な実践等が聞けてよかったです。特に田奈高校での取組は刺激を受けました。中途退学者が少ないのは、すばらしいです。橋口先生の学校教育相談に関する話に、勇気をもらいました。
- ・学校教育相談と特別支援教育で大切にされていることは、同じところだなあと感じた。どちらの専門性も学校には必要だと思うので、今回のように交流して、研修ができるといいと思った。

<コース別講座>

- ・アクティブラーニングの基礎・基本や授業をどのように組み立てるのがよいかということが、よくわかりました。自校の教職員に伝えたいと思いました。こんなに心地よい時間を過ごしたのは久しぶりです。ありがとうございます。
- ・アドラー心理学について、アドラーベったりでなく、さまざまな視点からのお話を聞けてよかったです。

- ・検査の基本も確認の上で事例をとおしてアセスメント、支援計画を具体的に学べてとてもよかったです。今後の対応に生かせそうです。
- ・傾聴とはどうすることかを学び直すことができました。今日を機にカウンセリングについてもっと深めたいと思いました。
- ・論文を書く上での手順や留意点、構成・方法などが学べたので、近々チャレンジしてみようと思った。
- ・理論的なところをしっかりと押さえながら実践も学べてとてもよかったです。
- ・カウンセリングを実施して、自分のカウンセリングの流れを検証しようと思い受講したが、今まで自分のカウンセリングは何だったのかと考えさせられた。明日から生かしていきたい。

震災被災者（地）支援委員会報告

本委員会は、平成23年度に会長諮問プロジェクトの一つとして発足し、4名が委員となり、必要に応じて被災地の会員の協力を得て、先生方が教室で使え役に立つこと、研修を通して先生方の輪が深まり元気になることを期待して、支援活動を続けてまいりました。

当初は「東日本大震災被災者（地）支援委員会」の名称でしたが、昨年4月に熊本地震が発生し、10月には鳥取県でも地震が発生するなど、東日本に限らず、全国を対象とした支援に広げていく必要が生じ、「震災被災者（地）支援委員会」に名称変更しました。

そうすると、関東地区に居住している支援委員が複数の地域への支援にかかわることにも限界があります。そこで、本学会が全国を7ブロックに分けて全国理事を出していること、ブロック単位の研修を行うなど、ブロックごとのつながりが深いことを考慮して、被災地域の支援のリーダーシップを各ブロックの長にとっていただき、ブロックが中心となり、近隣支部で応援体制を作っていくことを役員会に提案し了承されました。

具体的には、平成29年度は宮城県支部と連携して、宮城県支部会員と一緒に校内研修を行い、会員が実施できる研修プログラムを作るなど、会員支援の在り方を検証し、その成果を他のブロック・地域にも広げていきたいと考えています。

（文責：支援委員会委員長 砥柄 敬三）

会長コーナー

新しい時代の幕開け

1月20日、文部科学省から「教育相談等に関する調査研究協力者会議」の報告が公表されました。この内容には、戦後の生徒指導・教育相談を大きく変革する内容が含まれています。そのうちの2点について、コメントをしたいと思います。

第一に、スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) の常勤化が明言されています。そして、今回初めて、この SC になるための基礎資格に教育系心理学諸団体が認定しているガイダンスカウンセラー (GC) が入りました。GC とは日本スクールカウンセリング推進協議会が認定する資格です。本学会の学校カウンセラーは、申請すれば取得可能です。GC が SC になる道が開かれれば、学校カウンセラーを基礎資格として GC 資格を取得し、SC に転身することや退職後に SC として活動することが可能になるということです。

第二に、教育相談コーディネーターに言及したことです。教育相談コーディネーターとは、「学校全体の児童生徒の状況及び支援の状況を一元的に把握し、学校内及び関係機関等との連絡調整、ケース会議の開催等児童生徒の抱える問題の解決に向けて調整役として活動する教職員」で、「職務を遂行する上で一定の役割を与えることや学校の実情に応じ授業の持ち時間の考慮、学級担任以外の教職員とするなどの配慮も必要」と書かれています。

戦後、教育相談についてここまで言及した報告はありませんでした。そして、その内容は私たちが主張してきたことそのものです。GC 資格をぜひ取得してください。そして、将来の教育相談コーディネーターとして、実力を磨き、実践を積んでください。

(文責：会長 栗原 慎二)



事務局より

平成29年1月9日に行われた役員会で、報告・協議された概要は以下の通りです。

- 公認心理士関連では、ガイダンスカウンセラー資格を取得・継続することが、今後の我々を生かす道であり、学会としても、ガイダンス資格の取得への支援を検討する。
- 本学会の研修を受講することが、他学会の研修ポイントになることを確認する。
- 学会誌の採択率を上げていく工夫が必要。研究論文・実践論文・実践報告・資料についての説明を学会誌に掲載していく。
- 学生会員の入会金・会費関係は整理して次回の役員会に提案する。

(文責：事務局長 砥柄 敬三)

第52号編集後記

本学会は、実践と理論にしっかり取り組むことを念頭に置き、研鑽努力してきた学会として歩んできました。そのため、日々の実践だけでなく、研修会・研究会・研究大会への参加、論文の作成、学校カウンセラーやガイダンスカウンセラー資格取得など、会員の皆様のお役に立てるように、各委員会が様々な取り組みを進めています。互いにつながり支え合って、教育に関する様々な課題に対応できる力を育てたいですね。

(文責：広報委員長 梅川 康治)

日本学校教育相談学会会報

第52号

平成29年3月20日発行

発行 日本学校教育相談学会

会長 栗原 慎二

編集 日本学校教育相談学会広報委員会

委員長 梅川 康治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>